

第1回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会 会議録

○ 日 時

令和元年10月9日（水）午後3時～4時30分

○ 会 場

諏訪市役所 3階 302会議室

○ 出席者

＜諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員＞

平尾勇委員長、林直樹委員、今井晴彦委員、五味嗣夫委員、五味武嗣委員、
北原弘子委員、小針知栄美委員

＜オブザーバー＞

長野県産業労働部、諏訪圏工業メッセ実行委員会

＜運営支援＞

信州地域デザインセンター中平氏

＜事務局＞

渡辺副市長、木島企画部長、寺島企画政策課長、中澤企画政策係長、茅野企画政策係主任

○ 欠席者

浅井学委員

○ 会議概要

1 開会

（木島企画部長）

- ・第1回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を開催する。
- ・本日、会議終了後諏訪湖イベントホールの見学を予定している。
- ・報道から傍聴の希望があるが許可しても良いか。
※委員の了承を頂いた後、報道入室。

2 副市長挨拶

（渡辺副市長）

- ・本日は委員会に出席いただきありがとうございます。
- ・諏訪湖イベントひろばの活用方法について探っていくことになる。7haという広大な土地についてこれまでも活用について模索をしてきたが、昨年度、これからの諏訪市をどうしていくかを検討し基本構想を策定した。この基本構想をより具体的な基本計画につなげるため、委員の皆様の様々な知見をお借りしたい。
- ・私も7月に就任したばかりだが、以前から知っている場所だ。これからの諏訪市の将来を決める重要な施設になると思っている。
- ・10年20年という先を見据えて将来に引き継げるものでなくてはいけない。時代の変化は

激しく正解が何かというのは難しい問題だが、熱意をもって臨んでいかなくてはいけない
と思っている。

3 委嘱状交付

(木島企画部長)

- ・本来であれば、市長から委嘱状の交付を行うこととなるが、本日市長別公務のため欠席と
なっている。よって、委嘱状は机上に置かせていただく。

4 自己紹介

(木島企画部長)

- ・委員の方から自己紹介をお願いしたい。
※委員名簿順に自己紹介
※引き続き事務局自己紹介

5 会長副会長の選任

(木島企画部長)

- ・委員長の選任について事務局から説明をさせていただく。

(茅野企画政策課主任)

- ・委員会設置要綱に、委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定めるとある。事務
局に腹案があるが発表してもよろしいか。
※委員一同異議なし
- ・行政、金融、調査機関等様々な分野に精通している平尾様に委員長をお願いしたい。

(木島企画部長)

- ・事務局より腹案を申し上げたが、ご了承いただけるか。
※委員一同拍手にて同意
- ・委員長を平尾様とさせていただく。
- ・以降の進行は委員長である平尾様をお願いします。

6 報告事項

(金子会長)

- ・報告事項に先立ち、定足数の確認について事務局よりお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

- ・委員会の委員数 8 名のうち、本日出席の委員は 7 名であり、過半数の出席であることから
定足数に達していることを報告する。

(1) 諏訪湖イベントひろばについて

(平尾委員長)

- ・「(1) 諏訪湖イベントひろばについて」、事務局より説明をお願いしたい。

(寺島企画政策課長)

※資料に基づき説明

(平尾委員長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(A委員)

・今回の件については基本構想がベースになるかと思う。そもそも基本構想の骨子はなんなのか。

(寺島企画政策課長)

- ・大きな方向として、活用のコンセプトを産業振興・技術開発・観光振興・雇用拡大の拠点ゾーンとしている。
- ・今抱えている課題はいくつかあるが、今開催されている工業メッセの継続開催、新築・改築の選択や面積規模を含めた建屋の方針、地元の産業界・諏訪圏域・県との関係性をどのように生み出すか、資金調達、周辺環境の整備等がある。

(B委員)

- ・基本構想は読ませてもらっているが、非常に総花的でかなり幅広く検討してきたのだと思っている。それをどうやって絞り込んでいくか、どの点を落とすかを議論していくことも必要になってくると思う。
- ・基本構想をベースに様々な分野で議論を交わしていくことがこの委員会では重要になってくる。

(C委員)

・平成18年に20億8,500万円で一括購入とある。その後6億8500万円再取得しても約21億円簿価残っている。簿価が減っていないのはどういうことか。

(木島企画部長)

・20億8500万円には平成15年の一部取得が含まれていない。これを含めると約21億円簿価が残っていることになる。

(2) 諏訪湖イベントひろば活用可能性調査業務計画等

(平尾委員長)

・「(2) 諏訪湖イベントひろば活用可能性調査業務計画等」、事務局より説明をお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

・諏訪湖イベントひろば活用可能性調査業務については八千代エンジニアリング(株)に委託をしている。今回は八千代エンジニアリング(株)から業務計画やスケジュール、当面の調査内容について説明いただく。

(八千代エンジニアリング(株))

※資料を基に説明

(平尾委員長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(D委員)

・建屋を改築することや新築することが前提なのか、市として事業を既に何かしら考えているのか。

(木島企画部長)

- ・建屋について方針は決まっていない。基本構想でも改築、新築どちらも考えられるという内容としている。どのような事業であれば民間事業者の参入が見込めるのか、これから先に事業が実現できるのかを含め調査をしていく。

(C委員)

- ・民間事業者に対し調査するとのことだが、展示場の話ではなく、観光施設等収益施設についても入っているのか。展示場、インキュベーション施設、観光施設、商業施設について、それぞれ性格や収益性が違うものと思う。

(木島企画部長)

- ・現在の基本構想に基づく様々な可能性が残されている。どのような形であれば実現可能なかを調査していく。その中で、展示場を整備することは構想の中にあるが、それだけでは収益はあがらない。収益を確保するには観光施設がいいのか商業施設がいいのか工業に特化したものがあるのかどのようなものが良いのか調査する。

(E委員)

- ・諏訪市としてあそこをどうしていきたいのかコンセプトがあると思う。自分としては隣に病院もあるし医療に特化した街にすることで、工業者にとっても医療機器開発に携わり役に立つと思っている。諏訪市自体のコンセプトを明確にして、そのコンセプトを継続させていくということになる。
- ・展示場ありきで進んでいくのか、違う話もあるのか。工業者の自分としては、工業者としての意見を言う必要はあると思うが、こういうコンセプトに向けて工業者として何が出来るかという意見を言うかたちになるのか。

(B委員)

- ・全体の都市のイメージを明確にし、それを実現するために土地活用についてどうしていくかということだが、最初から選択肢を狭めた形で議論をスタートするのか。

(木島企画部長)

- ・かなり広い間口のスタートとなる。諏訪市として最初からこれやっていくということを示して議論していくわけではない。基本構想もかなり広い考えの内容となっている。その中でどのようなものが実現の可能性が高いのかを調査していく。その調査結果を基に市としてどのようなものがあるのかということ、委員の皆様と議論していきたい。

(B委員)

- ・諏訪市や諏訪圏域の今後の可能性をどのように扱うのかから議論していく。こちらで議論した結果について盛り込んで調査していくということ。人が集まるような仕組みを作ることが大切。例えばこれからのものづくりは完成品でなく、部品の精度を高めていくことが地域のブランド価値になる。それをいかし医療機器開発につながる環境整備をするなどかなり幅広い議論をした上で、可能性調査の対象に入れてもらうことと思う。

(A委員)

- ・地域の将来の活性化をどう実現できるかの1点になると思う。工業を中心とした話、観光支援、医療などポテンシャルはある。それを組み合わせどういう価値観を生み出せるのかという期待感がある。ゼネコンを入れてくれば、何か建てればいいという話にもなるかも

しれないが、かといってそのまま放置するわけにはいかない。

(B委員)

- ・議論を最初から狭めるつもりはないが、ずっと広くしていても仕方ない。入口は広く、政策は鋭角的。どこかの段階で建物をどうするのかの判断も求められるので、そのための資料は調査の判断材料になる。基本構想は総花的とは言ったが、この地域にとって重要な産業振興・技術開発・観光振興・雇用拡大という点は押さえている。それをどう現実的に実現していくかという議論は、夢物語でなく現実的なシビアな議論になってくる。次の世代を考えると生活環境や子育てということも考えていかななくてはいけない。

(A委員)

- ・最終的な目標値はないのか。人ともものがどう集まるのかというところで数値となるものはないのか。

(C委員)

- ・場所として数値は目標値にならない。非常時の避難場所等の考えもある。この場所は非常に公共性があったり、民間の利用価値もあったり色々が混ざっている。この土地の特性がいかせて市の財政を圧迫しないものになればいいと思う。

(F委員)

- ・現状あのエリアをどのような形であれば貸してもらうことができるのか。みんな知らないと思う。

(B委員)

- ・現状の活用方法も含めてだがメッセからも使用料をもらっているのか。

(茅野主任)

- ・メッセ実行委員会からは使用料をもらっている。その他では、映画の撮影、カーフェスタ、民間展示会についても土地開発公社として使用料をもらっている。地域の作業等の会場としての利用で無償の場合もある。現状最低限の整備をしており設備も整っていないことから、同一規模の会場としてはかなり安い使用料になっている。耐震等の問題により現状では使っているが、今後も活用していくには何かしらやっけていかなくてはいけないこともあり、このような検討をしている。

(C委員)

- ・八戸の朝市を見に行ったが、毎週2～3万人が集まる。そのくらいになるとインパクトが大きい。

(F委員)

- ・諏訪でも小さいエリアでコーヒーフェスティバルを開催したがそれでも3,000人集まった。

(A委員)

- ・現実問題放っておけない問題にはなっている。それを考えながら現実的議論をするのか。

(B委員)

- ・最初から考えを絞る必要はないが、ある程度議論を進める中で絞っていく必要はある。自由に出した議論で出た結論と、最初から決まっているものに対して出した結論とでは意味合いが全然違う。市民が理解してもらえる結論を出していきたい。
- ・これで報告は終わるがオブザーバーから何かあれば発言をお願いしたい。

(長野県産業労働部)

- ・県としてはメッセに対して補助金を出している。整備に当たり県が支援するという点であれば広域として意見をもってきてほしい。メッセの会場としては大事だが、会場という点であれば他にも会場はある。もっと広い視点での議論をお願いしたい。

(諏訪圏工業メッセ実行委員会)

- ・諏訪圏工業メッセが地方で成功している理由は、ものづくり技術の発信という点だと思う。開催が目的ではない。ただし、現状あれだけの規模の建物があるということも成功している要因の一つではある。

6 その他

※事務局から事務連絡

7 閉会

(午後 4 時 30 分)